

学級担任のまなざし 43

Okayama Prefectural Education Center

R2.8.7(Fri)

「初めて学級担任をしているみなさんへ」

放課後、子どもたちが帰った教室に一人残って、一日の出来事を思い出すのが日課でした。「今日は子どもたち全員と話ができた」…そう自信を持って言える日もありました。しかし、「今日、あの子と話をしていない…」と無力感に包まれる日もありました。毎日、教室という空間で、担任と子どもたちが生きていくことは、そんなに簡単ではありません。泣いたり怒ったり、悲しんだり悩んだりすることもあります。そんな時、今より少しでも子どもたちの心を知ることができたなら、子どもたちともう少し違った一日を過ごすことができたのではないか、今より少しでも力のある担任であったなら、もう少し違った寄り添い方ができたのではないか、そんなことを考える日もありました。

今年、初めて学級担任をしているみなさんも、一学期の間、夢中で頑張ってきたことと思います。新型コロナウイルス感染拡大により、学級づくりや授業づくりも難しく、休校や学校行事の縮小、毎日の健康観察や消毒など対応も大変で、緊張の日々だったことと思います。そうした中でも「子どもたちのために」という気持ちを胸に、ひたむきに頑張ったことでしょう。今から思えば「あの時、ああしておけばよかった」と思うことはあると思います。でも、あの時には、あの時の全力を出していたのではないのでしょうか。あの時には、やっぱりあれ以上のことはできなかったのではないのでしょうか。それでいいのだと思います。

全てを自分でやり遂げる人がすばらしい学級担任ではありません。すばらしい学級担任とは、全力を尽くしながらも自分の限界を知って、謙虚に学び続ける人です。一学期を走り続けたみなさん、ここで一度立ち止まり、ゆっくり心と体を休めてください。そして、自分のために素敵な時間を過ごしてください。みなさんにとって有意義な休暇となるよう願っています。